

文化遺産を活かした地域活性化事業実施報告書

①都道府県・市区町村名	奈良県	②補助事業の種類 (どちらかに「〇」)	I	地域の文化遺産次世代継承事業
			II	世界文化遺産活性化事業
③実施計画の名称	奈良県文化遺産地域活性化事業			
④実施計画期間	平成28年4月1日 ～ 平成29年3月31日			
⑤過去の補助事業実績				
平成23年度文化遺産を活かした観光振興・地域活性化事業			14,960千円	
平成24年度文化遺産を活かした観光振興・地域活性化事業			17,581千円	
平成25年度文化遺産を活かした地域活性化事業			13,967千円	
平成26年度文化遺産を活かした地域活性化事業			8,280千円	
平成27年度文化遺産を活かした地域活性化事業			11,307千円	
⑥計画の実施状況(概要)				
※平成28年度までに実施した計画の実施状況を記載してください。				
フェスティバル奈良事業(次世代継承事業・世界文化遺産活性化事業)				
※平成23年～平成26年までの補助事業者名は「奈良フェスティバル実行委員会」				
【平成23年度】				
1. 奈良フェスティバルプレイベント記念セミナー				
第1部は「日本の古典芸能は奈良からはじまった」と題して、狂言師・野村萬斎氏と女優・秋吉久美子の対談を、第2部は「奈良の文化遺産を活かした地域の活性化」をテーマにパネルディスカッションを行って、奈良の歴史と地域の芸能、国内でも有数の豊富な文化遺産の活用方法を問い直し、今後の展望についての討議を行った。				
・日時：平成23年年9月17日				
・会場：帝塚山大学 学園前キャンパス				
・講演者：野村萬斎(狂言師)、秋吉久美子(女優)、田中利典(金峯山寺執行長)、千田稔(奈良県立図書館館長)、長岡千尋(談山神社宮司)、小日向えり(タレント)				
2. 吉野芸能祭 吉野水分神社 御田植神事				
・日時：平成23年10月9日				
・会場：吉野水分神社境内				
・出演者：御田植神事保存会				
3. 吉野芸能祭 金峯山寺 奉納歌舞伎				
・日時：平成23年10月8日・9日 18時30分～20時00分				
・会場：金峯山寺蔵王堂特設舞台				
・内容：片岡仁左衛門・片岡千之助による「連獅子」、片岡孝太郎による「藤娘」				
・来場者数：約2300名(2日間計)				
【平成24年度】				
1. 文化財での古典芸能上演「世界遺産薬師寺奉納歌舞伎舞踊公演」				
・日時：平成24年10月29日・30日 18時30分～20時30分				
・会場：法相宗大本山 薬師寺大講堂前特別舞台				

・内容：薬師寺管長による御挨拶、市川海老蔵・中村壱太郎による「橋弁慶」、市川海老蔵による「口上」「春興鏡獅子」

※公演終了後、薬師寺金堂および玄奘三蔵院の夜間特別開帳を実施。

・来場者数：約 3000 名（2 日間計）

・シンポジウム「奈良、芸能の生まれるところ」

・日時：平成 25 年 2 月 9 日 13 時 00 分～16 時 00 分

・会場：東大寺総合文化センター 金鐘会館 大ホール

・内容：第 1 部 地域の伝統芸能の上演

吉野水分神社 御田植神事、祭文語り～勝田新左衛門～

第 2 部 基調講演「古典芸能を継承するということ」観世清和（26 世観世宗家）

「大仏さまと芸能」北河原公敬（東大寺別当）

パネルディスカッション「奈良、芸能の生まれるところ」

モデレーター：千田稔（奈良県立図書情報館館長）

パネリスト：北河原公敬、観世清和、林省吾、大倉源次郎

・来場者数：300 名

3. 大和まほろば能「安宅」

・日時：平成 24 年 10 月 8 日 15 時 30 分～

・会場：奈良県新公会堂能楽ホール

・内容：北河原公敬（東大寺別当）による解説、観世清和ほかによる「安宅」

【平成 25 年度】

1. 文化財での古典芸能上演「西大寺市川海老蔵奉納舞踊特別公演」

・日時：平成 25 年 10 月 31 日・11 月 1 日 18 時 30 分～20 時 00 分

・会場：西大寺東塔跡特設舞台

・内容：市川海老蔵ほか舞踊公演「保名」「お祭り」、市川海老蔵口上による縁の説明、西大寺僧による歴史的文献紹介、声明など

・来場者数：約 3400 名（2 日間計）

※会期に合わせて鳥居清信の絵馬「矢の根」・愛染明王像の特別公開を実施。

2. 僧侶による講演と寺社特別拝観「救いの夜一祈りの回廊」

各社寺の長が、その社寺の歴史や特質、日本や奈良とのかかわりあいなどを各社寺・本堂などで講演し、講演後に建築・仏像などを夜間特別拝観することで、奈良の歴史と文化財をより身近に体感できる取組を行った。単なる美術としての仏像や建築物ではなく、日本の精神史・思想的な観点からとらえることにより、より深化した理解につなげた。

・日時：平成 25 年 11 月 2 日、11 月 3 日、11 月 8 日

・会場：薬師寺（2 日）、東大寺（3 日）、元興寺（8 日）

・内容：薬師寺/講話：山田法胤管長 特別拝観：金堂、玄奘三蔵院伽藍、東塔水煙降臨展

東大寺/講話：筒井寛昭管長 特別拝観：俊乘堂「重源上人坐像」「阿弥陀如来立像」（快慶作）

元興寺/講話：辻村泰善住職 特別拝観：「板絵智光曼荼羅」、禅室「影向間」

- ・来場者数：約 260 名（3 日間計）

3. 奈良—アジア青年交流祭事業「大安寺国際縁日」

大安寺は六大寺の中では創建も古く、8 世紀には多くのアジアからの知識人（中国からは鑑真、ベトナムの仏哲、インドの菩提僊那などが知られている）が逗留して、東大寺の創建をはじめ、古代の日本国家の建設に助力したという。その歴史的記憶にちなみ、数年前から大安寺貫主が自力で行ってきた、日本に在留するアジアの留学生による各国民俗芸能の上演などフェアを奈良フェスティバル実行委員会が共催して規模を拡大した。

- ・日時：平成 25 年 10 月 13 日 10 時 00 分～16 時 00 分
- ・会場：大安寺境内、本堂
- ・内容：シンポジウム

講師：レー・クオク・ティーン（在大阪ベトナム総領事館大使級総領事）、
河野良文（大安寺貫主）

学生出展：中国、インド、ベトナム、韓国、ミャンマー、スリランカほか

民俗舞踊上演：中国、ミャンマー、アラブほか

4. 唐招提寺鑑真和上 1250 年御遠忌記念シンポジウム「日本の基層～奈良から学ぶこと、伝えること～」

鑑真和上の 1250 年御遠忌を迎える記念の年に、唐招提寺の文化財を会場にシンポジウムを開催。奈良の持つ「歴史的記憶」が現代にどう息づいているか、またそれらを地域活性化のために、どのように位置づけ、どのように活用していくかを討議。多方面で活躍する第一線の文化人が出演するユニークなシンポジウムとなった。

- ・日時：平成 25 年 9 月 28 日 14 時 30 分～16 時 00 分
- ・会場：唐招提寺僧坊
- ・パネリスト：アレックス・カー（日本文化研究家）、西山明彦（唐招提寺律宗宗務長）、磨赤兒（舞踏家、俳優）、本保芳明（元観光庁長官、実行委員長）
- ・来場者数：約 150 名

5. 伝統芸能ちびっこ未来フェス

奈良県には古典芸能、伝統芸能を継承しようと、地域ごとの伝習事業が民間で盛んに行われている。それら各団体と連携しながら、これらの子供たちによる芸能を一堂に会する発表会を行った。

- ・日時：平成 25 年 9 月 28 日 13 時 00 分～14 時 00 分
- ・会場：唐招提寺僧坊 ※4. シンポジウムと同時開催
- ・内容：ちびっこ桧垣本座（能）、明日香の響保存会（八雲琴）
- ・来場者数：約 150 名

【平成 26 年度】

1. 文化財を舞台にした古典芸能の上演

本殿はじめ諸社殿に大修理が施される式年造替を控えた春日大社を会場に歌舞伎舞踊の古典芸能公演を開催。春日大社に縁の演目「春日龍神」をもとに今回新たに創作された舞踊が披露され、歴史を再認識する機会になった。

- ・日時：平成 26 年 9 月 24 日（水）18 時 30 分～20 時 00 分

- ・会場：奈良県 春日大社境内飛火野特別舞台
- ・内容：春日大社宮司による式年造替説明、中村勘九郎・中村七之助による舞踊「甕大宝春日龍神」、和太鼓、一調一管など
- ・来場者：約 1,600 名

2. シンポジウム「はじまりの地・奈良～奈良から学ぶこと、伝えること」

法相宗大本山薬師寺を会場に、日本文化の見識者を迎えてシンポジウムを開催。

薬師寺では国宝・東塔の解体修理が行われており、過去から受け継がれてきたものをさらに未来につなげていく営みの最中であることから、「はじまりの地、奈良」が今に伝えるいにしえのことがらを紐解き、これからの奈良のありかたを多角的に考えるディスカッションを行った。

- ・日時：平成 26 年 12 月 7 日（日）14 時 30 分～16 時 00 分
- ・会場：奈良県 薬師寺 まほろば会館
- ・パネリスト：山田法胤（薬師寺管長）、千田稔（奈良県立図書館館長）、本保芳明（元観光庁長官）、大谷恭久（株式会社 JTB 国内旅行企画社長）
- ・来場者数：133 名

3. 伝統芸能ちびっこ未来フェス

県内各地に、長い歴史を持つ多彩な伝統芸能が継承されている奈良。地域ごとに子どもたちへの伝習事業を民間で行うなど、その保存・継承活動もさかんに進められている。その成果を発表する場として「伝統芸能ちびっこ未来フェス」を開催した。

- ・会期：平成 26 年 12 月 7 日（日）13 時 00 分～13 時 40 分
- ・会場：奈良県 薬師寺 まほろば会館 ※2. シンポジウムと同時開催
- ・内容：八雲琴（明日香の響保存会）、日本舞踊（こども日本舞踊つぼみ会）、詩舞（詩舞きょう風会）
- ・来場者数：80 名

4. 僧侶による講演と寺社特別拝観「救いの夜一祈りの回廊」

各社寺の長による、社寺そして奈良の歴史・文化について本堂など境内の建物内での講演。講演後に建築や仏像など文化財を拝観し、美術的な観点のみならず、日本の精神史・思想史からの観点での文化遺産の魅力についての理解につなげた。

- ・日時：①平成 26 年 11 月 13 日（木）17 時 30 分～19 時 30 分、②平成 26 年 11 月 15 日（土）17 時 30 分～19 時 15 分、③平成 26 年 12 月 6 日（土）17 時 30 分～19 時 30 分
- ・会場：①春日大社、②興福寺、③東大寺
- ・内容：①特別講演：春日大社・花山院弘匡宮司 特別参拝：本殿夜間参拝と献灯、②特別講演：興福寺・多川俊映貫主 特別拝観：北円堂、③特別講演：東大寺・筒井寛昭別当 特別拝観：俊乗堂
- ・来場者数：①46 名、②51 名、③44 名

(5) 大安寺国際縁日【台風のため中止】

8 世紀の創建当時、国の筆頭寺院として多くの渡来僧、アジアの文化人が逗留する迎賓館の役割を担っていた大安寺。日本仏教史上重要な役割を果たした歴史にちなみ、日本に在留するアジアの留学生による各国文化の紹介、民俗芸能の上演を行う。本年は「特別企画：日印交流」と題して 10 月 13 日に開催する予定だったが、台風のため中止となった。

【平成 27 年度】

1. 文化遺産を舞台にした古典芸能の上演

「古都奈良の文化財」の構成資産の一つである薬師寺を会場に開催。薬師寺では現在国宝東塔の大修理という、受け継がれてきた歴史をさらに未来へとつなげていく取組が行われている最中であり、文化遺産の保存・継承とその活用について考えるにふさわしいまたとない機会となった。

- ・日時：平成 27 年 8 月 26 日 18 時 30 分～20 時 30 分
- ・会場：薬師寺大講堂特設舞台
- ・内容：薬師寺管長による御挨拶、市川猿之助・尾上右近による「吉野山」「連獅子」
- ・来場者：約 1,200 名

※終演後、金堂と玄奘三蔵院伽藍の特別拝観を実施

2. 世界遺産シンポジウム

興福寺を会場に、日本文化の見識者を迎えてシンポジウムを開催。古都奈良の文化遺産が今に伝える日本の歴史・文化とそれを今後の地域づくりにどう活かしていくか、奈良にとっての「文化財の活用」の望ましいかたちを考えた。

- ・会期：平成 28 年 1 月 23 日
- ・場所：興福寺会館
- ・パネリスト：多川俊映（興福寺貫主）、リービ英雄（日本文学者）、柳澤保徳（帝塚山学園学園長）、本保芳明（元観光庁長官）
- ・動員：200 名（入場無料）

3. 伝統芸能ちびっこ未来フェス

奈良県各地には長い歴史を持つ多彩な伝統芸能が継承されている。地域ごとに子どもたちへの伝習事業を民間で行うなど、その保存・継承活動もさかんに進められている。本フェスティバルではその成果を発表し、無形文化遺産の保存・継承への意識高揚を図るとともに、奈良の文化資源の魅力を広く全国に発信してさらなる地域活性化を図った。

- ・会期：平成 28 年 1 月 23 日
- ・場所：興福寺会館 ※2. 世界遺産シンポジウムと同時開催
- ・内容：八雲琴、日本舞踊、詩舞
- ・動員：200 名（入場無料）

4. 僧侶による講演と寺社特別拝観「救いの夜一祈りの回廊」

各社寺の長による、社寺そして奈良の歴史・文化についての本堂など境内の建物内での講演。講演後に建築や仏像など文化財を拝観し、美術的な観点のみならず、日本の精神史・思想史からの観点で文化遺産の魅力についての啓発につなげた。奈良県が展開する秘仏・秘宝開帳「祈りの回廊」をフェスティバル奈良実行委員会が拡大し、文化遺産を身近に感じる機会をより多く創出することで魅力の再発信と保存・継承への意識高揚を図った。

- ・日時：①平成 27 年 10 月 25 日 17 時 00 分～19 時 00 分、②平成 27 年 11 月 7 日 17 時 00 分～18 時 30 分、③平成 27 年 11 月 14 日 17 時 00 分～18 時 30 分
- ・会場：①東大寺、②唐招提寺、③元興寺
- ・内容：①特別講演：東大寺・筒井寛昭別当 特別拝観：大仏殿夜間拝観、②特別講演：唐招提寺・石

田智圓長老 特別拝観：開山堂「鑑真大和上御身代わり像」、金堂、③特別講演：元興寺・辻村泰善住職 特別拝観：禅室「影向間」、板絵智光曼荼羅

・来場者数：①80名、②40名、③40名

5. 大安寺国際縁日

8世紀の創建当時、国の筆頭寺院として多くの渡来僧、アジアの文化人が逗留する迎賓館の役割を担っていた大安寺。日本仏教史上重要な役割を果たした歴史にちなみ、日本に在留するアジアの留学生による各国文化の紹介、民俗芸能の上演を行った。

・日時：平成27年10月25日 10時00分～16時00分

・会場：大安寺境内、信徒会館

・内容：特別公演「インドの仏教遺産」T.アムストロングチャングサン（在大阪・神戸インド総領事）

学生出展：ベトナム、ネパール、インドネシアほか

民俗舞踊上演：インドほか

・来場者数：約1,000名

【平成28年度】

1. 世界文化遺産普及啓発事業

(1) 世界遺産での奈良ゆかりの芸能の上演

現在の能楽の母体となった大和猿楽は奈良が発祥であり、能の謡跡も県内には数多い。

その歴史にちなみ、世界遺産・興福寺で能楽のうちの狂言を上演した。

興福寺では現在、平成30年に中金堂が再建完成予定など、創建当時の伽藍の復興を目指した取組が行われている。興福寺を会場にすることで、古都奈良の歴史と文化遺産の保存・継承の意義を改めて考え、古都奈良の文化財が持つ価値を広く再発信する契機となった。また当日は東金堂の夜間拝観も実施し、奈良の文化遺産の持つ価値、背景にある我が国の歴史・文化の魅力を広く再発信した。

・日時：平成28年9月29日（木）19時00～20時40分

・会場：奈良県 興福寺 東金堂前庭特設舞台

・内容：興福寺僧侶による法要、興福寺貫首多川俊映師による興福寺縁起説明、野村万作による「奈須与市語」、野村萬斎・若村麻由美による「千手」

・来場者数：800名

(2) 僧侶による特別講話と寺社特別拝観「学びの夜一祈りの回廊」

生きた伝統とも言える、世界遺産各社寺の長による社寺そして奈良の歴史・文化についての講演。境内の僧坊等の建物での講演後に建築や仏像など文化財を拝観し、美術的な観点のみならず、日本の精神史・思想史からの観点で世界遺産の魅力についての啓発につなげた。今年度は「なら瑠璃絵」と同時期に共催し、集客が多い時期に世界遺産を身近に感じる機会をより多く創出することで魅力の再発信とより一層の普及啓発を図った。

・日時：①平成29年2月9日（木）16時30分～18時45分、②平成29年2月10日（金）16時30分～19時30分、③平成29年2月11日（土）16時30分～17時30分

・会場：①東大寺、②春日大社、③興福寺

・内容：①特別講演：東大寺・狭川普文別当、特別拝観：法華堂、②特別講演：春日大社・花山院弘匡宮司、特別拝観：本殿・瑠璃燈籠、③特別講演：興福寺・多川俊映貫首、特別拝観：東金堂

- ・来場者数：①300名、②250名、③180名

(3) 世界遺産シンポジウム

春日大社を会場に、日本文化の見識者を迎えてシンポジウムを開催。春日大社の式年造替という文化遺産の保存・継承のために古から行われてきた儀式の現在的な意義を改めて考えると同時に、古都奈良の文化財が今に伝える日本の歴史・文化と、それを今後の地域づくりにどう活かしていくか、奈良にとっての「文化財の活用」の望ましいかたちについて考察した。

- ・日時：平成29年2月10日（金）17時30分～18時30分
- ・会場：奈良県 春日大社 感謝共生の館 ※「救いの夜－祈りの回廊」と同時開催
- ・パネリスト：花山院弘匡（春日大社宮司）
- ・来場者数：250名

⑦事業実施による効果等の検証・分析結果

※平成28年度までの計画の実施により得られた効果や実施以後の状況（人数、理解度、活用状況、人材育成などの指標に基づき、定量的・定性的な効果）を具体的に記載してください。

フェスティバル奈良事業

【定量的効果】

●特設サイトのPVは興福寺公演で13,000PV、「祈りの回廊」で9,000PVとなり、リンク先（各社寺等関連機関）への訪問も認められ、世界文化遺産に対する認識と関心の拡大に貢献した。

目標値 20,000PV 実績値 22,000PV 達成率 110%

●「学びの夜」のアンケートでは各回とも世界文化遺産に対する関心・理解が「とても深まった」「深まった」と回答した人が80%を超え、世界文化遺産に対する認識と関心の拡大と文化財継承に関する意識高揚に繋がった。目標値 75% 実績値 85% 達成率 113%

●世界遺産での奈良ゆかりの芸能の上演 目標値 1,500名 実績値 800名 達成率 53%

●僧侶による特別講話と寺社特別拝観「救いの夜－祈りの回廊－」

目標値 100名×3回 計 300名 実績値 300名、250名、180名 計 730名 達成率 243%

●世界遺産シンポジウム 目標値 200名 実績値 250名 達成率 125%

【定性的効果】

○世界文化遺産に対する認識と関心の拡大と文化財継承に関する意識高揚

会場となる社寺をはじめ、地域固有の歴史・伝統に親しむことにより、奈良が受け継ぐ文化遺産とその他の有形・無形の文化遺産に対する深い関心と呼び起こして魅力を再発見し、文化遺産並びに文化財継承に対する意識の高揚を図る大きな機会となった。

また、奈良の歴史・文化の特徴は、古代より連綿として僧侶・神官によってその大部分が継承されているという点にある。文化継承に重要な役割を果たし、また、文化財とともに日々生活している僧侶による講話や、シンポジウムを創設することにより、多くの人々が学術的な価値だけでなく身近な愛着、日本人の原点としての「こころ」を感じ、文化財の保存・継承の重要性をより深く理解することに繋がった。

○観光振興・地域の活性化

本事業の開催を核に、年間を通して地元社寺はじめ民間団体、地域商工会など県民が一体となり奈良の文化財を活用した様々な取組を推進し、それら県民の運動を通して地域が活性化していくことに成功した。